

2025.5.15

No.190

たなぐら 議会だより



2
ページ

令和7年度
当初予算を可決

7
ページ

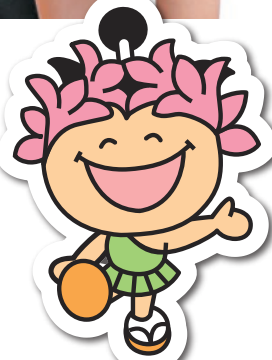
町政を問う
一般質問

17
ページ

議会の活動状況
報告

18
ページ

議会モニター
言わせて一言



もくじ

表紙写真
「今日から一年生」
棚倉小学校入学式

「躍動たなぐら」の実現を目指し

令和
7年度

当初予算を可決

定例会
3月会議

棚倉城築城400年 記念事業



Photo: 芳賀元昌

「上がる城 城熱 棚倉城フェスタ」や棚倉藩の歴代藩主御子孫によるシンポジウムなどを開催します。

令和7年度に行う 一般会計の主な事業です

たな暮らし住宅取得等 支援事業



若者や子育て世帯等が、住宅取得や増改築した費用の一部を助成します。

ステップアップ給付金 事業



小学校入学時3万円、中学校と高校入学時に5万円を支給します。

大学生等通学支援事業



町内に住所を有し、公共交通機関を利用して大学等に通学する生徒に、通学定期券購入費用の一部を支援します。

主な事業

- ・ 企業人材確保奨学金返還支援事業
- ・ 文化センター大規模改修事業
- ・ 防災行政無線維持管理事業
- ・ 幼稚園送迎バス・スクールバス運行事業
- ・ すこやか赤ちゃん応援給付金事業
- ・ 歴史的風致維持向上計画推進事業
- ・ 棚倉城跡石垣復旧事業



定例会3月会議は、3月6日から14日まで、9日間の会議日程で開催されました。
第7次振興計画実現のための、令和7年度当初予算や令和6年度予算の補正、条例の改正、専決処分の報告、追加議案の人事案件などについて審議し、すべて原案のとおり可決・同意されました。
一般質問は9名の議員が登壇し、町政をたしました。

令和7年度各会計の予算額

(△は減額表示／1万円未満切捨て)

会 計 名				7年度予算	6年度予算	比 較	
						増減費	伸び率
一 般 会 計				80 億 6,800 万円	75 億 6,000 万円	5 億 800 万円	6.7%
特別会計	国 民 健 康 保 険			12 億 3,599 万円	12 億 2,003 万円	1,596 万円	1.3%
	後 期 高 齢 者 医 療			1 億 7,213 万円	1 億 6,106 万円	1,107 万円	6.8%
	介 護 保 険			15 億 5,910 万円	15 億 4,908 万円	1,002 万円	0.6%
	霊 園 整 備 事 業			70 万円	72 万円	△2 万円	△2.7%
公 営 企 業 会 計	上水道事業	収 益 の 収 支	収 入	3 億 6,570 万円	3 億 6,567 万円	3 万円	0.0%
			支 出	3 億 5,610 万円	3 億 4,536 万円	1,074 万円	3.1%
		資 本 の 収 支	収 入	1 億 3,008 万円	1 億 4,695 万円	△1,687 万円	△11.4%
			支 出	2 億 6,523 万円	2 億 8,663 万円	△2,140 万円	△7.4%
	簡易水道事業	収 益 の 収 支	収 入	6,990 万円	5,040 万円	1,950 万円	38.6%
			支 出	4,444 万円	4,515 万円	△71 万円	△1.5%
		資 本 の 収 支	収 入	2,931 万円	1,029 万円	1,902 万円	184.8%
			支 出	3,823 万円	1,911 万円	1,912 万円	100.0%
	下水道事業	収 益 の 収 支	収 入	3 億 3,325 万円	3 億 4,012 万円	△687 万円	△2.0%
			支 出	3 億 3,730 万円	3 億 3,818 万円	△88 万円	△0.2%
		資 本 の 収 支	収 入	1 億 6,229 万円	1 億 7,446 万円	△1,217 万円	△6.9%
			支 出	2 億 3,100 万円	2 億 4,446 万円	△1,346 万円	△5.5%

当初予算審議

令和7年度各会計当初予算の審議は、予算特別委員会が設置され2日間 にわたり慎重に審議しました。
提出された議案をすべて原案のとおり可決すべきものと決定され、最終日の本会議において、審査結果を委員長が報告しました。



討論の末に可決

令和7年度棚倉町一般会計予算の原案をめぐって討論が行われ、採決の結果、賛成多数で可決しました。

反対1人
賛成12人

反対

松本 トク子 議員

賛成

小沼 勝弘 議員

令和7年度棚倉町一般会計予算案は、歳入歳出ともに80億6千8百万円となり、前年比5億8百万円の増である。
すこやか赤ちゃん支援、入学時のお祝い金、大学生の奨学金返還支援、補聴器購入補助支援などは大いに評価できる。

近隣町村で実施している学校給食費の無償化は、国においても無償化を検討しているため、本町においても早急に無償化とすべきである。

また、保育園の無償化も図るべきである。本町の保育園は社会福祉法人であるが、運営責任は自治体であり、町立とし保育士を役場職員同等の待遇とすべきである。これにより保育士不足も解消され、待機児童も解消されるのではないかと。

働く若い世代は実質賃金が上がらず、物価高騰の中、苦しい生活を強いられている。学校給食費と保育園の無償化にかかる予算見積額は全体予算の約1パーセントに過ぎず、決して大きな数字ではない。

さらにルネサンス棚倉は、今年度も9千5百万円の予算を計上しているが、町民のための予算にはなっていない。抜本的な解決を図るべきである。

この他、農業後継者問題、商店街振興の問題点等があるが、この3点から反対討論とする。

令和7年度棚倉町一般会計予算案は、子育て支援、街並み環境整備、自治体DXなど、当面する町の重点施策が盛り込まれている予算となっている。

歳入においては、国県支出金や寄附金の増加など財源の確保に努めながら、繰入金の額を昨年度より減額し、町財政の健全化に向けて努力している内容がうかがえる。

次に、歳出においては、子育て環境の充実のために、預かり保育や放課後児童クラブの充実、高校生等生活応援給付金の継続、さらに新規事業として妊婦に対する分娩施設までの交通費、宿泊費の助成、地元企業や事業者に対する人材確保支援の実施、また、棚倉城跡及び馬場都々古別神社門前周辺の環境整備など、経費の節減と有利な財源の活用を図りながら、必要な事業の予算化に努めているものとみられる。

したがって、厳しい財源状況のなか限られた財源を必要な事業へ分配しようとしているこの予算案を適切なものと考え、賛成し討論とする。

条例の制定

◆刑法等の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

刑法等の一部が改正されることに伴い、関係する条例について、一部を改正するため条例を制定。

◆地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴う関係条例の整理に関する条例

地方自治法の一部を改正する法律の施行に伴い、条ずれが生じたことから、棚倉町上水道事業の設置等に関する条例、棚倉町簡易水道事業の設置等に関する条例及び棚倉町下水道事業の設置等に関する条例を一部改正するため、条例を制定。

条例の一部改正等

◆棚倉町公益的法人等への職員の派遣等に関する条例の一部を改正する条例

「一般財団法人棚倉町活性化・観光物産協会」が令和7年4月に発足されることを見据えて、派遣職員の給与等について地方自治法の規定に基づき所要の改正。

◆棚倉町職員の勤務時間、休暇等に関する条例の一部を改正する条例
育児介護休業法等が改正されたことに伴い、超過勤務の免除の対象となる子の範囲拡大及び仕事と介護の両立支援制度を利用しやすい勤務環境の整備などについて、所要の改正。

◆棚倉町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例
育児介護休業法等の一部改正に伴い、非常勤職員の部分休業についての条文を明確化するため、所要の改正。

◆職員の給与に関する条例の一部を改正する条例

福島県人事委員会の勧告に基づく、管理職員特別勤務手当の支給対象時間について、所要の改正。

◆棚倉町印鑑の登録及び証明に関する条例の一部を改正する条例

印鑑の登録を受けたマイナンバーカードにより、新たに窓口を設置された書かない窓口端末等でも、印鑑登録証明書の交付のため改正。

◆棚倉町リゾートスポーツプラザ「ルネサンス棚倉」条例の一部を改正する条例

燃料費等の物価高騰に対応するため、指定管理者が弾力的に料金を設定できるよう、宿泊施設の利用料金の上限額を改正。

◆棚倉町宮駐車場条例の一部を改正する条例

条例制定後に分筆が行われていることから、改めて地番の追加をするとともに、利用者の利便性向上の観点から供用時間を終日に改正。

◆棚倉町家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例

児童福祉施設等の設備及び運営に関する基準及び家庭的保育事業等の設備及び運営に関する基準の改正に伴い、所要の規定を整備するための改正。

◆棚倉町社会教育委員条例の一部を改正する条例

少子高齢化に伴う人口減少の現状を踏まえ、柔軟な委員の選考を行うための改正。

◆戸中大岩平辺地に係る公共施設の総合整備計画の変更について

令和6年度で計画期間が終了する、道路整備事業等の起債額に変更があるため。

◆戸中大岩平辺地に係る公共施設の総合整備計画について

橋梁長寿命化事業、道路整備事業、消防施設整備事業、通学バス整備事業の計画期間を、令和7年度から令和11年度までの5年間とするため。

■令和6年度3月補正後の予算額 (△は減額表示／1万円未満切捨て)

会 計 名		補 正 額	補正後の予算額
一 般 会 計		14,979 万円	86 億 323 万円
特別会計	国民健康保険	193 万円	12 億 3,521 万円
	後期高齢者医療	358 万円	1 億 6,464 万円
	介護保険	△2,552 万円	16 億 918 万円
	霊園整備事業	116 万円	189 万円

町政を問う

定例会3月会議では9人の議員が登壇し質問を行いました。
1人の制限時間は60分、一問一答方式で行われます。
行政全般について町民の身近な課題や町政発展に係る質問を活発に議論しています。

1 薄井 喜一 議員 8ページ

1. 棚倉町の人口減少対策は
2. 棚倉町の医療対策は

2 松本 トク子 議員 9ページ

1. 危機に直面する訪問看護
2. 棚倉城築城400年記念事業プレイベントを通して見えた問題点は
3. 棚倉町の文化財の保護と活用は

3 大竹 盛栄 議員 10ページ

1. 役場職員を増員する考えは
2. 観光誘客事業と支援は
3. 令和7年度も子どもサポート教室支援体制を維持する予定か

4 割栢 義夫 議員 11ページ

1. 中高年層の引きこもりの実態は
2. 児童・生徒の携帯電話等の個人所有は

5 菊池 忠二 議員 12ページ

1. 人口減少に伴う就労者確保の施策は
2. 古町通に多目的広場整備の予定は
3. 町立小・中学校の放射線教育は
4. 花園高野楨見学のための駐車場整備の計画は

6 藤田 智之 議員 13ページ

1. 給食費無償化の見通しは
2. スクールバスにもっと乗せてほしい等の要望は
3. 以前の車両の下取り金額は
4. 新たな公園の計画は

7 沼野 将美 議員 14ページ

1. 友好都市との交流状況は
2. ホッケー場整備の進展は

8 高橋 みゆき 議員 15ページ

1. 保育士不足への対応は
2. 町観光協会・物産振興会・活性化協会の合併に期待する効果は

9 小沼 勝弘 議員 16ページ

1. 健康保持・増進の取り組みは
2. ごみの不法投棄対策は



厚生文教常任委員会



総務常任委員会

令和7年度の条例改正等の議案については、各常任委員会に付託され審査を行いました。

常任委員会審査

請願

◎国に対し「選択的夫婦別姓制度の導入を求める意見書」提出についての請願

提出者

新日本婦人の会棚倉支部

審査結果

支部長 金子 芙美子
不採択

◎国に対し「女性差別撤廃条約選択議定書のすみやかな批准を求める意見書」提出についての請願

提出者

新日本婦人の会棚倉支部

審査結果

支部長 金子 芙美子
採択



建設経済常任委員会

陳情

福島県最低賃金の引き上げと早期発効を求める意見書提出の陳情

提出者

日本労働組合総連合会福島県連合会東白川地区連合会

議長 菊池 克明

人事案件

全会一致で同意しました。

人権擁護委員候補者の推薦



広瀬 忍 さん
(棚倉)

1月第1回会議

1月第1回会議は、1月30日に開かれました。

会議では補正予算の議案などを慎重に審議し、原案のとおり全会一致で可決しました。

棚倉町一般会計補正予算

2億4,559万円増額

主な内容

◎物価高騰対応生活者支援対策事業費

6,812万円

食料品価格等の物価高騰の影響を受けた生活者への支援として、町民1人につき5千円の「たなぐら応援クーポン券」を交付する費用。

専決処分の報告

◎棚倉町保健福祉センター冷暖房設備更新工事請負変更契約締結

○変更後契約金額

76,972,500円(△80万円)

○契約の相手方

棚倉町大字金沢内字山の神78番地3株式会社コバヤシ

代表取締役 小林 秀樹

問 棚倉町の人口減少対策は

答 各分野に対応した事業を展開

問 町として婚活イベントを開く考えは。

町長 八溝山周辺地域定住自立圏、しらかわ地域定住自立圏で開催する独身男女のイベントの活用をはじめ、今年度から町内飲食店が、男女の出会いイベントを企画し実施する場合に補助支援する、たなこい応援デー事業を実施している。

問 本町に移住した直近1年間の人数は。

町長 県で、把握している統計によると18人。

問 町として人口減少を止める方策は。

町長 人口減少対策として、出会いや婚活に対する支援、教育及び子育て支援、住宅施策や移住、雇用環境対策などにしっかりと取り組んでいく。

産業振興課長 企業人材確保奨学金返還支援事業は、大学生だけ



イベント等による交流人口の創出

ではなく高校生の奨学金も含めて支援する。

問 棚倉町の医療対策は

答 白河広域市町村圏内の4つの中核病院及び町内医療機関と連携し医療提供体制を継続していく

問 町内の医療機関と町との連携は。

町長 健康増進事業をはじめ、母子保健、予防接種、介護保険、公費負担の医療費助成、休日在宅当番医などの事業について連携を図っている。

問 塙厚生病院及び白河厚生総合病院の地域連携室と町との関わりは。

町長 県南地域では、退院支援ルールガイドラインが策定され連携が図られている。塙厚生病院とは、棚倉町地域包括ケア会議を開催し、情報を共有している。



塙厚生病院

問 本町に総合病院を誘致する計画は。

町長 医療従事者が、不足している現状や、医療法に基づく病床数の規制など、実現に向けての課題が多いため、現時点では総合病院を誘致する考えはないが、安心・安全な生活を守るためには、白河広域市町村圏内の4つの中核病院と、棚倉町の医療機関と連携して、医療体制を確保する。



うす い ち 薄井 喜一

問 危機に直面する訪問介護

答 一人一人に寄り添い対応していく

問 訪問介護報酬の令和5年度と6年度の比較は。

町長 国が示す令和6年度訪問介護基本報酬改定額は、前年度と比較し約2〜3%減額されている。

問 本町における訪問介護の現状への認識は。

町長 1事業者が3月末に休業の予定。

また以前から人材不足によりサービス提供が困難となっている生活介護サービスは、有償ボランティアによる生活支援援助事業を立ち上げ対応している。今後とも、各事業所や関係機関と連携を図りながら、対応策を検討する。



介護福祉の充実を

問 訪問介護報酬の引き下げで事業者が経営困難に陥っているが、町の対応は。

町長 人材不足が課題であると認識している。

問 第9期の所得段階区分の変更内容は。

町長 国の示す第1号被保険者の所得段階が9段階から13段階に変更。本町も令和6年度から同様とし、低所得者の保険料上昇の抑制等を図った。

問 棚倉城築城400年記念事業プレイベントを通して見えた問題点は

答 集客ターゲット層をどう設定し情報発信していくかが重要と認識

問 棚倉城跡内の環境整備の考えは。

町長 年間を通し施設内の除草や清掃、樹木の枯れ枝の剪定や伐採を実施している。なお、今年度においては、利用者の安全を確保するため、倒木の恐れがある樹木を伐採した。

問 観光案内所の資料充実は。

町長 歴史などを紹介する上で必要な資料を充実させていく。

問 お堀の水の管理はどう考えているか。

整備課長 町堀から入った水を滞留させないような循環方法を計画している。



棚倉城跡

問 棚倉町の文化財の保護と活用は

答 町文化財展、観光PRイベントなどに、所有者の理解を得ながら出展していきたい

問 子ども達の学習のため、郷土愛を育むためにも、歴史的民俗資料館の創設を考えては。

生涯学習課長 文化財の保存や活用は必要。その手法として、既存の施設を活用しながら、広く周知はしていきたい。



まつ もと こ 松本 トコ子

問 役場職員を増員する考えは

答 DX推進で効率化を進める

問 役場職員の正職員数は定数条例の何割か。

町長 155人の条例に対し130人で、83.9%となっている。

問 定員適正化計画では令和8年4月1日において136人が適当となっているが。

総務課長 令和4年度に策定しているが、DX化が進んでおり状況を考慮し、職員の増減を考える。

問 上下水道事業職員資格要件は。

町長 上下水道では技術管理者の資格を有する職員を配置し、下水道では、責任技術者を有する業者に委託。

問 土木事業等の技術者の採用と育成が必要と思うが。

町長 土木行政職員は、平成11年度を最後に募集していない。専門的な知識を要する部署では、計画的に研修の機会を設けている。

問 定数条例の見直しや条例内での職員増員の考えは。

町長 現時点では考えていないが「躍動たなぐら」を実現する上でも必要に応じて増員を行うのは重要であると考えているが、DX推進による効率的な行政運営に取り組む。

問 実施計画の項目が1.35倍になったが同数の職員では不安があるが。

町長 実施できるポイントを把握して項目が増えたので、こなしたいけるよう対応する。



復活・出世のパワースポット！アがる城棚倉城築城400年
築城開始400年の棚倉城跡

問 観光誘客事業と支援は

答 棚倉城築城イベントや各種団体と連携し、必要な支援を検討

問 棚倉城築城400年記念イベントの時期と内容は。

町長 10月25日に「アがる城熱 棚倉城フェスタ」等を開催。

問 一般財団法人棚倉町活性化・観光物産協会は築城400年イベントとどう関わるのか。

町長 観光情報の発信拠点として期待し、築城400年記念事業においても町と連携しPR活動に取り組んでもらう。

問 白河市議会で陣羽織を着て議を開き注目された。本町でも築城400年イベントのPRのための取り組みはできないか。

町長 一つのアイデアとして検討できるかと思う。



おお たけ もり えい
大竹 盛栄



棚倉町活性化・観光物産協会事務所

問 令和7年度も子どもサポート教室支援体制を維持する予定か

答 指導員を1人増員し支援体制を強化

問 サポート教室と多様化学校との連携の形は確立したのか。

教育長 今後確立するが、両教室の橋渡しの役割を担うと考える。

問 小・中学生以外のサポート教室の利用は可能か。

教育長 サポート教室を利用していた、卒業生が利用するのは便宜的に差し支えない。

問 中高年層の引きこもりの実態は

答 実態を把握することが困難

問 中高年層の引きこもりが懸念されるが本町の実態は。

町長 引きこもりとなるきっかけや背景が様々であり、実態把握は困難な状況にある。関係機関と連携しながら、当事者に寄り添った支援に取り組んでいく。

問 高齢者の健康に「社会のつながり」が大きく影響しているが取り組み状況は。

町長 各種介護予防教室や修道館大衆、老人クラブや各種ボランティア活動などへの社会参加により、健康につながる取り組みを推進している。

また、来年度から、新たに補聴器購入費助成事業を開始したいと考えており、社会参加のきっかけとしたい。

問 高齢者の安心・安全を確保するための施策は。

町長 緊急通報装置の設置や配食サービス、生活援助事業等の実



第47回文化祭 芸能発表
各種団体の練習成果を発表

施や、民生委員や地域包括支援センターによる見守り活動を行い、各種サービスの利用につなげるなど高齢者の安心・安全な生活の確保に努めている。

問 高齢者や要支援者の個別避難計画の作成・進捗は。

健康福祉課長 支援に結びつける調査をしたが同意を得られない方もいる。

問 児童・生徒の携帯電話等の個人所有は

答 状況把握の対応は各学校の判断に委ねている

問 小・中学校の直近5年間のいじめ相談件数と不登校の人数は。

教育長 いじめ相談件数は令和元年度から、71件、59件、83件、88件、64件。不登校人数は令和元年度から、19人、22人、22人、41人、41人。

問 精神的なSOSを早期に把握するための体制は。

教育長 定期的なアンケート調査や担任の個人面談等も実施し、スクールカウンセラーや、スクールソーシャルワーカーによる巡回等で、早期把握に努めている。

問 各小・中学校の教育環境の特徴は。



PC授業に取り組む児童たち

問 不登校の予兆をチェックする体制は。

子ども教育課長 生活アンケート、いじめ調査用紙などを基に面接、教育相談の実施。欠席が連続した生徒には、必ず家庭訪問を実施し、不登校の予兆発見に努めている。



わり がや よし お
割 栢 義 夫

問 人口減少に伴う就労者確保の施策は

答 町内就業者の奨学金返還を支援

問 奨学金返還支援事業の内容は。
産業振興課長 令和7年度から年間18万円を上限に、最長5年間奨学金の返済を補助する。

問 町長の掲げる6つの人口流出抑制策緊急新規事業の中の一つ、暮らし住宅取得支援事業の内容は。
地域創生課長 町内外の45歳以下の方が町内に住宅を取得した場合、上限60万円を支援。

問 今後外国人就労者が増加していくと思われるが、現在本町に在住している外国人の数と年代は。
町長 令和7年2月1日現在、175人で20歳未満が9人、20代が78人、30代が52人、40代以上が36人。

問 本町に在住の外国人労働者に対する支援策は。
町長 町独自の施策はないが白河地域定住自立圏で令和7年度から外国人材活用支援事業を実施予定。

問 外国人にも住宅取得支援事業は該当するのか。
地域創生課長 一定期間居住があれば可能。

問 田舎であっても国際色豊かな包容力のあるまちづくりのため、外国人にも住みやすい地域づくりが必要では。
町長 棚倉町だったら安心して来れる町づくりを目指していきたい。

問 古町通に多目的広場整備の予定は。
答 既存施設を含め検討していく。

問 亀ヶ城築城400年の節目に当たり観光拠点の施設整備は。
町長 歴史的風致維持向上計画に基づく観光交流拠点整備を進めていく。



城跡多目的広場

問 町立小・中学校の放射線教育は。
答 年間各学年2時間の放射線教育を実施



きくち ちゅうじ 菊池 忠二

問 7年度の放射線教育の予定は。
子ども教育課長 本年同様、自然教室で震災語り部の方を講師に招き震災や避難の状況、放射線について話を聞いたり、ユーチューブの動画を活用した授業を計画。

問 除染土など町長の考えは。
町長 双葉町の伊沢町長の発言も含め、放射線、原発の教育は小さい頃からしっかり行うべき。



推定樹齢740年の我が町花園の高野榎



ふじ た とも ゆき 藤田 智之

問 給食費無償化の見通しは

答 国において令和8年度より導入予定

問 児童数の減少により運営の見直しが必要な状況の中、給食費の無償化が国でも議論されているが、本町の考えは。
教育長 国において令和8年度より先ずは小学校で無償化を実現し中学校もその後進める方針と認識。

給食費の補助割合を約3割に引き上げ物価高騰に対し、質を落とさず安定提供している。

現時点で、町が先んじて給食費無償化に取り組む考えは無い。運営方法の変更は考えていないが将来は検討課題となり得る。食育にも様々な取り組みがある。

問 ふるさと納税を財源に時期を早めての無償化は。
町長 金額的に難しい数字ではないが、信念として無償化には抵抗がある。それ以外で教育環境の充実に努めたい。

問 スクールバスにもっと乗せてほしい等の要望は。
答 特に要望等は聞いていない。

問 小学校の統合が視野に入ると、スクールバスを柔軟に運用しもっと乗せてほしい等の要望にこたえるべきでは。
教育長 現時点で特に要望等は聞いていない。

遠隔地等、通学が困難な児童生徒への支援であり、趣旨を踏まえ適切に対応する。中学生の乗車対象を昨今の生活形態等を踏まえ、1キロ短縮し概ね片道4キロ以上に変更。要望があれば丁寧に対応する。地域の足としても登録者が利用しニーズを満たしている。

問 要望があり可能であればそれなりに対応できるのか。
子ども教育課長 集団登校がで



スクールバス

問 以前の車両の下取り金額は。
答 ほとんど値段はなかった。

問 行政財産の処分方法としてオークションの活用とこれまでの取組実績は。
町長 令和3年度から官公庁オークションを活用し、これまでに普通車1台、消防積載車5台、小



オークションにも出品される車両

問 新たな公園の計画は。
答 新たな振興計画の中で検討していきたい。

問 友好都市との交流状況は 答 様々な形で交流を続けている

問 全国京都会議を通じた自治体交流はあるのか。

町長 年に一度の総会への参加を通して情報交換を行いながら、本町の観光PRに生かしている。

問 全国京都会議への加盟は活用されているか。

地域創生課長 今年は加盟団体によるドライブスタンプラリーを予定しており、各自治体・関係機関と連携した事業を計画している。

問 日本ホッケー協会を通じた自治体交流はあるのか。

教育長 「ホッケータウンプレサミット」において、今後の認定自治体同士の交流など、活動促進を図っていく旨の提案がされた。今後活動が活発化することを期待し、ルネサンス棚倉とも連携を図りながら、積極的に交流促進に努めていく。

問 パートナースィティの考えは。

町長 パートナースィティという考え方も大事、勉強しながら取り組んでいきたい。

問 友好都市との交流を増やす考えは。

地域創生課長 自治体間の効果的な交流を推進するため考えていきたい。

問 新しく友好関係を結ぶ考えは。

町長 全国の各自治体とのつながりを活かしながら、新たな交流の創出について検討を進める。



川越藩行列保存会

問 ホッケー場整備の進展は

答 照明改修は有利な財源確保に努め、検討する

問 防球ネット改修及び更衣室整備についてその後の検討は。

教育長 防球ネットについては、「もっと高さが欲しい」との要望を踏まえつつ、緊急性や必要性等を精査し、改修を検討。

更衣室は、ポンプ室脇の部屋が利用可能。引き続きそちらを活用して頂きたい。

問 トイレ側へのライト設置の検討は。

産業振興課長 できるかどうかが検討していく。

問 救護棟・東屋の整備の考えは。

教育長 現時点で整備する予定はない。

問 雷・ゲリラ豪雨時等の一時避難所の検討は。

産業振興課長 パルテノン等を緊急時に活用を願いたい。

問 ホッケー場の整備に対してルネサンス棚倉と意見交換の場は。

教育長 定例情報交換会を再開し、これまで以上に連携を密にしていく。



「高さが欲しい」との要望がある防球ネット

問 保育士不足への対応は 答 全国的な保育士不足により苦慮

問 現在及び4月以降の保育士の不足は。

教育長 全国的に保育士不足が深刻になっており、本町でもやむを得ず待機児童を発生させてしまいう要因の一つとなっている。

問 待機児童は何人になるか。

子ども教育課長 令和7年度の待機児童は4人となると見込み。

問 何人の先生が不足するのか。

子ども教育課長 待機児童を解消するためには5人と聞いている。

問 保育士不足に対する町の対応は。

子ども教育課長 人材派遣会社などを活用できないか検討。



棚倉保育園

たい。

問 補助団体である保育園に対しての管理・関与もされるべきでは。

子ども教育課長 管理・関与の仕方について検討している。

問 こども園設立の考えはないとの事だが、保育士不足解消の手段とならないか。

子ども教育課長 解消するのであれば選択肢のひとつである。

問 町観光協会・物産振興会・活性化協会の合併に期待する効果は

答 町の活性化につながる事業展開を期待する

問 新組織の際の役員の人数と配置は。

町長 現在の活性化協会の評議員を3人から5人に、役員の理事を3人から7人に変更する予定である。

問 町の活性化に向けての、事業展開は。

町長 自治体のルールに縛られることなく、スピード感ある事業展開を期待、また、観光・物産・



図書館内に設置される事務所



高橋 みゆき



沼野 将美

● 定例会・その他会議

会 議	開 会	閉 会	会議日程	傍聴者数	一般質問	
					登壇人数	質問件数
1月第1回会議	1月 4日	1月 4日	1	6		
定例会3月会議	3月 5日	3月12日	8	49	8	25
定例会6月会議	6月12日	6月14日	3	38	7	18
8月第1回会議	8月 7日	8月 7日	1	3		
定例会9月会議	9月24日	9月27日	4	54	7	19
定例会12月会議	12月11日	12月13日	3	44	9	21
合 計			20	197	31	83

● 提出議案数

種 類		件 数
町長提出	条 例	20
	予 算	29
	決 算	9
	専 決 処 分	10
	そ の 他	25
	合 計	93
議員提出	意 見 書	1
	規則／その他	8
	合 計	9



議会運営委員会の様子

● 委員会・研修会開催状況

区 分	委 員 会	開催日数
常任委員会	総 務 常 任 委 員 会	2
	厚生文教常任委員会	3
	建設経済常任委員会	4
	広報編集常任委員会	14
	議 会 運 営 委 員 会	5
	予算・決算特別委員会	3
	議 会 全 員 協 議 会	8

令和6年に参加した主な研修会等

2/16 新人議員研修会	7/ 2 町村議会広報研修会
2/26 福島県町村議会議長会第2回定期総会	8/20 福島県町村議会正副議長・事務局長研修会
5/21 全国町村議会議長・副議長研修会	10/25 福島県町村議会議員研修会
6/ 3 福島県町村議会議長会第1回定期総会	11/13 町村議会議長全国大会



議会の活動状況を報告します
(令和6年1月1日～令和6年12月31日)

問 健康保持・増進の取り組みは

答 健康寿命の延伸策を積極的に推進

問 第2次健康たなぐら21計画の9年経過時点の評価と課題は。

町長 本計画に基づき、健康寿命の延伸に向けて、健康づくり施策の積極的な推進により、一定の成果があったと評価している。
一方、本町は高血圧や糖尿病の方が多く、生活習慣病予防のための施策強化が課題である。

問 第2次健康たなぐら21計画の令和7年度終了後の取り組みは。

町長 令和6年度に町民アンケートを行っており、その結果も踏まえ、7年度内に第3次計画を策定する。

問 国民健康保険加入者の過去3年間の特定保健指導実施率は。

町長 令和3年度が71%、4年度が56%、5年度が59%で、国・県に比べて高い状況にあり、生活習慣を振り返る貴重な機会であるため、7年度は目標値の60%を目指していく。

問 特定保健指導の実施率向上に向けた施策は。

町長 制度の周知をはじめ、訪問、電話、健診会場での面談等、あらゆる機会を確保し、内容の充実を一層図っていく。



活動拠点の保健福祉センター

問 健康長寿の町たなぐらの実現に向けた町長の思いは。

町長 健康は誰しも願うことであり、意識を変えることが重要。役場内においても健康経営を推進していく。

問 ごみの不法投棄対策は

答 様々な手法を活用し不法投棄対策に取り組む

問 過去3年間における苦情受付件数と主な内容は。

町長 件数は集計していないが、町道や農道の法面、ごみ集積所への不法投棄に関する相談が多い。回収したごみは、弁当の空き容器や段ボール、プラスチック類、紙おむつなどであり、粗大ごみも回収している。

問 環境監視員によるパトロールの具体的内容と成果は。

町長 町内5ブロックで、環境監視員9人を委嘱。定期的な巡回など、監視体制が強化されたことで、不法投棄のごみの回収量は、年々減少している。

問 不法投棄の発見箇所の再発防止対策は。

町長 地元行政区等と協議し、道路法面付近に不法投棄防止の立て看板を設置し、注意喚起するとともに、職員等によるパトロールも行っている。

問 不法投棄の未然防止に向けた啓発活動は。

町長 町広報誌や啓発チラシの配布等により、家庭ごみの出し方のルールやマナーの周知に取り組んでいる。



注意喚起の看板設置



こ ぬま かつ ひろ
小沼 勝弘

言わせて一言

人を・心を・時をつなぐたなぐらまちに

住む皆様にご意見、ご感想を伺いました。

岡田にお住まいの
沼野 裕一郎さん



4月、長男が県外の高校へ進学するため、棚倉を旅立ちました。よりレベルの高い教育を受けたいという息子を、地元で留めておくことはできませんでした。親バ力である私は、棚倉から1人優秀な人材がいなくなってしまうと思いました。

問題は、大学まで進学するであろう息子が、卒業後、棚倉に帰ってくるのかという事です。

魅力ある町とは、「何がある」も大事だが、「どんな人達が住んでいる」のかが大事なのではないかと思っています。

魅力ある人々が住んでいる町は、魅力的な町で、町外からも魅力ある人が集まってくるのではないのでしょうか。

息子が棚倉に帰って来なくなるような魅力ある町づくりを、議員の方々と協力して行い、私自身も魅力ある人間になれるよう努力していければと思います。

丸内にお住まいの
近藤 喜四重さん



私は、棚倉町に嫁いで四十三年になりました。

仕事や子育てを通して、友人がたくさんできました。今は、その友人達と一緒にお茶を飲んだり、野菜作りの話しをしたりして情報の共有をしています。

また、町の施設で開催されているシニア体力づくりや折り紙教室に参加したり山本不動尊や城跡の公園を散歩したりすることも楽しみの一つです。町の一大イベントである秋祭りの賑やかな雰囲気も大好きです。

これらを通じたさまざまな年代の方との交流は、日々の生活を活気づけてくれるものになっています。

棚倉町には、幅広い世代の方が楽しめる施設やイベントがたくさんあります。このことを多くの人に知ってもらい、みんなが住みよ町づくりを一緒に進めようってほっぺん張るね。

議会を傍聴しませんか



傍聴の手続きは役場庁舎3階の傍聴席入口で住所と名前を書きだけで、どなたでも傍聴できます。

定例会6月会議日程のお知らせ(予定) ※正式日程は、6月上旬開催予定の議会運営委員会で協議されます。

● 6月11日(水) 開会・本会議 ● 12日(木) 一般質問 ● 13日(金) 一般質問

編集後記

大船渡市や今治市などで大規模な山林火災が発生し、全国でも多くの山火事が発生しました。本町でも町民全員で防火に気を付けて行かなければなりません。

令和7年度的一般会計予算は前年度より5億円増加した盛り沢山の予算編成になっております。観光事業も年間を通して棚倉城築城400年記念事業や4月1日から6月30日に「ふくしまプレステイネーションキャンペーン」が開催されます。

特に我が町の「復活・出世のパワースポット!?」上がる城棚倉城築城400年の年に当たり、町議会全町民で歴史が認められた「上がる町」棚倉町を盛り上げて行きましょう。

和知 裕喜

広報編集常任委員会

委員長	佐川 裕一
副委員長	和知 裕喜
委員	沼野 将美
委員	高橋 みゆき
委員	割栢 義夫